

#### (7)後輩に今の会社を薦めますか。その理由を教えてください

階級社会であることを考えると忍耐力がないと続けることは難しい仕事だから。

業績が安定している

やりがいがないから

サービス残業が多いため

働きながら常に勉強ができる環境で、難しい仕事ではありますがやりがいも得られる仕事です。

休みも週に2日しっかり休めて残業もほとんどなく毎日定時に帰ることができています。

また、積極的に学会への参加や外部の研修の参加ができるので自分の身になります。入社後の研修もしっかりされるので、業界未経験でも活躍できると思います。

私は実家を継ぐために、建築関係から転職して美容業界に入りました。仕事となると毎日の占める時間も多いです。なので一緒に働く年齢なども仕事をする上で楽しさだったりに影響するのではないかと思います！

その点美容業界は常に若い人材が在籍しているので私は働きやすく感じました。

職種未経験者では業務遂行が難しいため。

基本業務が夜勤のようなものだから

業務内容と賃金が見合っていない

給料も申し分なく、休暇も多いので働きやすいです。非常勤という点で、長く続けることを考えると昇給がないのがネックですが、仕事内容では子どもたちと接する機会も多く、大学・大学院での学びを生かした職となり充実しています。大学での勉強が知識のベースとなり、大学院での実習が即戦力に繋がった点と思います。

ホールディングスのグループ会社に建設コンサルタント業界でトップの日本工営が入っていることもあり、とても安定しているし、福利厚生も充実している会社だと思う。環境に関わる仕事や人と関わる仕事など、大学での学びを活かすことが出来ると思う。

安定していてとても働きやすい職場

#### Q4. 人間環境大学（特に就活指導について）および後輩に対して、ご自由にコメントをお書きください。

早めに準備して、自分が何をしたいのかどんな所で社会に貢献したいのかを分析して就活した方がいい。

なし

勉強が忙しいと思いますが適当に決めずにしっかりと考えて進めて行くことが大切です。最初に私が就職した農園は年間休日が70日しかなくその情報も入社するまでわかりませんでした。年間休日など企業情報の確認が重要です。中小は企業情報をあやふやに記載することがあるので注意してください。

実際に飛び込んでみないとわからないことだらけなのが、就職活動だと思っています。自身に向いている仕事か一体なんなのかを探すのは大変な事かもしれませんが、そこを実際にやってみて判断できればそれで良いのかなと思います！就職先が多くて迷う事はあるかもしれませんが、頑張ってください！応援しています！

とにかく早く行動すること一択です。また、既に就活を終えた先輩や新社会人(特に自分と同じような職種、業界を目指す人)にコツを聞くことが面接においては1番かと思っています。

頑張って

フリーターでも案外なんとかなりますよ

がんばってください。

とにかく何が何でもしっかり就職活動を行うこと。最初から業界を狭めたりせず、幅広く業界を見ること。

就活は1つの分野に絞らず、様々な仕事を見てみるとより面白いと思います。

【実施日】 令和5年9月15日から9月30日

【回収率】 15名/124名（回答率12.1%）

設問1の「人間環境大学は第一志望でしたか。」に対して「いいえ」と回答したのは15名中7名（47%）で、前回調査結果では11名中3名（27.3%）という回答であった。元々のサンプルが小さいので、結論的なことは言い難いが、「いいえ」反応が増えたことは、本学よりも偏差値帯の高い大学を第一志望とした学生が増えた結果ではないかと推察される。

また、設問2の「本学で学んだ専門的な内容は、仕事に活かされていますか。」に対しては、「ある程度活かされている」「十分活かされている」と回答したのは15名中10名（66.6%）で、前回調査の11名中9名（81.8%）よりも低いという結果であった。本学で修得した専門知識を仕事に活かすことができているとの認識が、採用側で高まるような学びの体制を一層強化していくことが必要であろう。

設問「現在、お仕事をされていますか」に対して「はい」と回答したのは14名中14名で100%の回答であった。前回調査の7名（63.6%）よりも増加している。その仕事について「卒業時と同じ」、「転職した」、「卒業後は進学した」の3択で回答を求めると、「卒業時と同じ」8名、「転職した」4名、「卒業後は進学した」1名、という回答結果であった。

全体的に回答者数が少ないために、正確な傾向を掴むことは難しいが、そのような限界があ

るものの、本学を第一志望として選んだ学生が減少しているという結果は、本学が少しずつではあるが入学の難しい大学の滑り止めの的な位置を獲得しつつある可能性が指摘できよう。

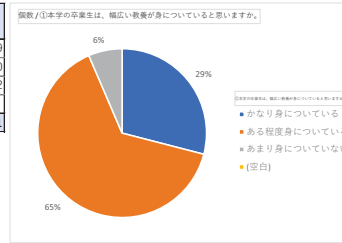
次に、本学における学びの結果として、それらの学びが仕事にいかされているという認識がそれほど強くないところは検討材料であろう。ただ、環境系と心理系とでは、その仕事の内容も異なるであろうから、単純な推測は禁物であろう。今後は、回答者数を増やすような努力を行い、より正確な情報を得るような試みが検討されるべきであろう。

令和5年度実施 就職先企業様アンケート結果（2019年度卒業生）  
 調査期間  
 調査対象企業数  
 アンケート送付者数  
 アンケート回答社数

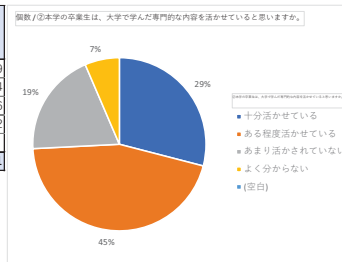
令和5年9月15日～9月30日

85 社  
 85 社  
 33 社 回答率 38.8%

行ラベル	個数 / ①本学の卒業生は、幅広い教養が身についていると思いますか。
かなり身につけている	9
ある程度身につけている	20
あまり身につけていない	2
(空白)	
総計	31



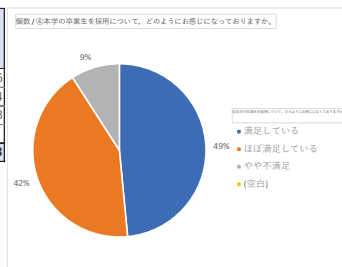
行ラベル	個数 / ②本学の卒業生は、大学で学んだ専門的な内容を活かされていると思いますか。
十分活かしている	9
ある程度活かしている	14
あまり活かされていない	6
よく分からない	2
(空白)	
総計	31



行ラベル	個数 / ③本学の卒業生が貴社の業務に貢献するためには、在学中にどのような能力を習得することが望ましいですか（複数回答可）
コミュニケーション能力	1
コミュニケーション能力, 基本的ビジネススキル（報連相）	1
コミュニケーション能力, 思考力, ビジネスマナー・約束事, 基本的ビジネススキル（報連相）	6
コミュニケーション能力, 思考力, 企画力・発想力	1
コミュニケーション能力, PCスキル, 思考力, ビジネスマナー・約束事, 基本的ビジネススキル（報連相）	2
コミュニケーション能力, 思考力, 基本的ビジネススキル（報連相）	3
コミュニケーション能力, 思考力	1
(空白)	
コミュニケーション能力, 企画力・発想力, 専門性	1
コミュニケーション能力, ビジネスマナー・約束事	3
コミュニケーション能力, PCスキル	2
コミュニケーション能力, PCスキル, 思考力, 企画力・発想力	1
コミュニケーション能力, ビジネスマナー・約束事, 基本的ビジネススキル（報連相）	1
コミュニケーション能力, 企画力・発想力	1
コミュニケーション能力, 思考力, ビジネスマナー・約束事	1
思考力	1
コミュニケーション能力, PCスキル, 思考力, ビジネスマナー・約束事	2
コミュニケーション能力, ビジネスマナー・約束事, 企画力・発想力, 専門性	1
コミュニケーション能力, 基本的ビジネススキル（報連相）, 企画力・発想力	1
コミュニケーション能力, PCスキル, 思考力, ビジネスマナー・約束事, 基本的ビジネススキル（報連相）, 企画力・発想力	1
総計	33



行ラベル	個数 / ④本学の卒業生を採用について、どのように感じになっておりますか。
満足している	16
ほぼ満足している	14
やや不満足	3
(空白)	
総計	33



## 令和5年度 就職先企業様アンケート 結果の分析

【実施期間】 令和5年9月15日から9月30日

【回収率】 33社／85社（回収率38.8%）

まず、回収率であるが、前回調査は70社にアンケートを求めた結果16社からの回答を得たので、22.9%の回答率であったが、今回はアンケート送付先も増えたが、回答を寄せた企業も増えたことが認められた。このことは本学の卒業生に対する何らかの関心の度合いが高くなっている可能性を示唆している。

設問1は「本学の卒業生は、幅広い教養が身についていると思いますか。」を問うているが、この設問に対しては「かなり身についている」「ある程度身についている」と回答を寄せたのは31社中29社（94%）であり、前年度の同質問に対する結果である（87.5%）よりも上昇していることが認められた。この結果は、本学の卒業生が社会人として求められる教養を修得しているとの認識が企業側に醸成されていることを窺わせる。

設問2「本学の卒業生は、大学で学んだ専門的な内容を活かしていると思いますか。」に対しては、「ある程度活かされている」「十分活かしている」との回答があったのは31社中23社（73%）で、こちらの回答も去年の調査結果の（62.5%）よりも優れるという結果であった。一方で「あまり活かされていない」と回答があったのは6社（19%）で前回

調査結果の4社(25.0%)よりもネガティブな反応が減少した。また「よく分からない」と回答があったのは2社(7%)で前回の数と同じであるが、分母が増えているために、率は低下している。以上の結果は、本学大学において修得された専門的知識やスキルが、おおむね業務に役立てることができているとの評価であるが、少ないながらも専門的知識を活かしていないという回答も一定数みられることから、企業側が一層本学卒業生の有用性について実感できるような全額的な取り組みがさらに必要とされよう。

設問3「本学の卒業生が貴社の業務に貢献するためには、在学中にどのような能力を修得することが望ましいですか。(複数回答可)」について、最も回答の多かった選択肢は「コミュニケーション能力」であり、34社中32社(94.1%)という結果であった。前回調査は16社中15社(93.8%)で、総数は今回が多いが、これを率にして比較すると、ほとんど変化がないという結果であった。前前年度の同調査では、81.8%(11社中9社)であったので、幾分とも増加傾向である。大学における演習科目での討論や部活動・サークル活動、ボランティア活動などを通して育成されるべき能力が、新型コロナウイルス対応による対面授業の削減などによって、十分に達成されなかった可能性も指摘されよう。他にも、「思考力」については20社(58.8%)と前回調査の11社(68.8%)よりも低下している、幾分とも思考力があると認められた結果と思われる。また「基本的ビジネススキル」「ビジネスマナー」についてもほぼ半数の会社からの指摘があり、こちら方面での能力の開発が必要となろう。例えば演習授業での挨拶や振る舞いかたなど、卒業後を見据えたカリキュラムの実践と就活指導において修得できるような方略が要求されよう。

設問4「本学の卒業生の採用について、どのようにお感じになっておりますか。」については、回答のあった33社中30社(91%)で「満足している」「ほぼ満足している」との回答であり、前回調査の16社中14社(87.5%)よりも良い成績であった。おおむね満足を得ていることがわかる。しかし、「やや不満足」「不満足」との回答も3社(12.5%)あり、この点については今後の就職指導において、改善される必要があるだろう。